

症例基盤・問題解決型学修(実践)

責任者・コーディネーター	地域医療学分野 伊藤 智範 教授				
担当講座・学科(分野)	地域医療学分野、医学教育学分野、腫瘍生物学研究部門、消化器内科分野、呼吸器内科分野、総合診療医学講座、看護学部看護専門基礎講座				
担当教員	伊藤 智範 教授、田島 克巳 教授、下沖 収 教授、前沢 千早 教授、遠藤 龍人 教授、梁井 俊一 准教授、秋山 真親 特任講師、相澤 純 特任講師、佐藤 洋一 非常勤講師				
対象学年	2	区分・時間数	講義	17コマ	25.5時間
期間	通期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針(講義概要等)

代表的疾患を理解できるようになるために、ペーパーペイシエントを用いて、病態生理を基礎医学から結び付けて学習する。基礎医学に立脚して疾病を理解できるように、疾患の症状を生理学や解剖学と結び付けて、確認をしながら問題解決型学習(PBL; Problem based learning)をおこなう。一般的な症候を訴える患者に対して、どのようなアプローチで疾患の診断と治療を行えば良いか、またそれを論理的に進める際に必要な基礎的知識と技能が何かを、少人数グループ(履修背景をもとにしたメンバー構成)で調べて、プレゼンテーション資料をつくり、発表と討議を行うコースである。

・教育成果(アウトカム)

1年生に引き続き、低学年から症例・症候ベースで患者情報に接することで、基礎医学と臨床医学のつながりを病態生理について理解しながら、学修できるようになる。症例をベースにした少人数グループ作業によるPBLをおこなうことで、常に病者を念頭において、ヒトの体の正常構造と機能、および病態生理を学ぶことができるようになる。また、チームとして作業をする上で必要な、役割分担とコミュニケーション能力が向上する。自己の学修履歴を記録しておき、常に振り返る習慣を身につけることで、自己学修を自律的に行う事ができる。1年生での基礎と臨床を繋げる学修を継続的に実践し、3年生で学ぶより複雑な症例を理解できる基礎を作る。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,4,5)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	症候から考えられる多様な疾患を、具体例をあげて説明し、鑑別診断を挙げる思考ができる。
2	疾患に関する症候とその病態生理を、必要な基礎医学に基づいて述べるができる。
3	医療面接を想定し、必要な問診事項と追加するべき検査を挙げるができる。
4	基礎医学に立脚して与えられた臨床データ(検体検査、生理検査、特殊検査)を解釈し、診断のプロセスを述べるができる。
5	少人数グループ内で、役割を決めて成果物を作り上げることができる。
6	修得したプレゼンテーションスキルをもとに、適切な発表ができる。
7	自己学修の記録(ポートフォリオ)をつけることができる。
8	チームの和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。

・講義場所

講義: 東1-B講義室 実習: 東1-B講義室、西4-A・西4-B実習室

・講義日程(各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載)

区分	月日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/22(月)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	イントロダクション【講義室】	1,7

講義	4/22(月)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	プレゼンテーションの基礎と応用【講義室】 プレゼンテーションの基礎から応用までについて、「最低限押さえておくべき内容」「お約束（業界の常識）」「更に知っておくと良いtips」を実例や実習を交えて学修する。	6,7
講義	5/20(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授	解説講義・追加情報提示A・B ・発熱・易疲労感について、事前の症例提示を予習し、与えられた課題に対して準備しておく。 ・事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。 ・割り当てられた内容について、各自学修し、成果物を作成する。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	5/20(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授	解説講義・追加情報提示A・B ・発熱・易疲労感について、事前の症例提示を予習し、与えられた課題に対して準備しておく。 ・事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。 ・割り当てられた内容について、各自学修し、成果物を作成する。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	6/3(月)	1	地域医療学分野 看護学部看護専門基礎講座	伊藤 智範 教授 遠藤 龍人 教授	解説講義・追加情報提示C・D ・浮腫、食欲不振について、事前の症例提示を予習し、与えられた課題に対して準備しておく。 ・事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。 ・割り当てられた内容について、各自学修し、成果物を作成する。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	6/3(月)	2	地域医療学分野 看護学部看護専門基礎講座	伊藤 智範 教授 遠藤 龍人 教授	解説講義・追加情報提示C・D ・浮腫、食欲不振について、事前の症例提示を予習し、与えられた課題に対して準備しておく。 ・事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。 ・割り当てられた内容について、各自学修し、成果物を作成する。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	6/17(月)	1	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学講座 看護学部看護専門基礎講座 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 遠藤 龍人 教授 田島 克巳 教授	共有化発表会1・教員レクチャー ・成果物の発表を行う。発表者は当日指名する。 ・教員による解説講義を行う。 ・確認テストの実施。	1,2,3,4,5,6,7,8

講義	6/17(月)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 総合診療医学講座 看護学部看護専門基礎講座 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 下沖 収 教授 遠藤 龍人 教授 田島 克巳 教授	共有化発表会1・教員レクチャー ・ 成果物の発表を行う。発表者は当日指名する。 ・ 教員による解説講義を行う。 ・ 確認テストの実施。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	9/5(木)	5	地域医療学分野 消化器内科分野 呼吸器内科分野	伊藤 智範 教授 梁井 俊一 准教授 秋山 真親 特任講師	解説講義・追加情報提示E・F ・ 腹痛・呼吸困難について、事前の症例提示を予習し与えられた課題に対して準備しておく。 ・ 事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。 ・ 割り当てられた内容について、各自学修し、成果物を作成する。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	9/30(月)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	解説講義・追加情報提示G・H ・ 胸痛、動悸について、事前の症例提示を予習し与えられた課題に対して準備しておく。 ・ 事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	10/3(木)	5	地域医療学分野 消化器内科分野	伊藤 智範 教授 梁井 俊一 准教授	共有化発表会2・教員レクチャー ・ 教員による解説講義を行う。 ・ 成果物の発表を行う。 ・ 確認テストの実施	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	10/10(木)	5	地域医療学分野 呼吸器内科分野	伊藤 智範 教授 秋山 真親 特任講師	共有化発表会2・教員レクチャー ・ 教員による解説講義を行う。 ・ 成果物の発表を行う。 ・ 確認テストの実施	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	10/28(月)	1	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	共有化発表会3・教員レクチャー ・ 教員による解説講義を行う。 ・ 成果物の発表を行う。 ・ 確認テストの実施	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	10/28(月)	2	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	共有化発表会3・教員レクチャー ・ 教員による解説講義を行う。 ・ 成果物の発表を行う。 ・ 確認テストの実施	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	11/13(水)	1	地域医療学分野 地域医療学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 非常勤講師	解説講義・追加情報提示I・J 事前の症例提示を予習し与えられた課題に対して準備しておく。 ・ 事前の症例提示の解説講義をうける。追加情報と課題が提示される。	1,2,3,4,5,6,7,8
講義	12/4(水)	1	地域医療学分野 地域医療学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 非常勤講師	共有化発表会4・教員レクチャー ・ 教員による解説講義を行う。 ・ 成果物の発表を行う。 ・ 確認テストの実施	1,2,3,4,5,6,7,8

講義	12/11(水)	2	地域医療学分野 地域医療学分野	伊藤 智範 教授 佐藤 洋一 非常勤講師	共有化発表会4・教員レクチャー ・教員による解説講義を行う。 ・成果物の発表を行う。 ・確認テストの実施	1,2,3,4,5,6,7,8
----	----------	---	--------------------	-------------------------	---	-----------------

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	岩手医科大学基本症例集（オープン問題）			
教科書	内科診断学 第3版	福井 次矢、奈良 信雄 編集	医学書院	2016
参考書	内科学書 改訂第8版	小川 聡 総編集	中山書店	2019
参考書	Andreoli and Carpenter's Cecil essentials of medicine 9th ed.	Ivor J. Benjamin ほか	Saunders	2016
参考サイト	https://tsutawarudesign.com			
参考書	プレゼンテーションzen	ガー・レイノルズ 著	丸善出版	2009
参考書	あなたのプレゼン誰も聞いていませんよ！	渡部欣忍 著	南江堂	2014
参考書	技術1割のプレゼン	阿部泰之 著	中外医学社	2018
参考書	岩手医科大学 国試対策テキスト			

・成績評価方法

<p>【総括評価】 総括評価：形成的評価物（①）提出者を対象とする。 前期試験（MCQ） 後期試験（MCQ90%、記述式10%）で行う。</p> <p>前期試験（50%）後期試験（50%）で評価し、60点以上を合格点とする。</p> <p>【形成的評価】 形成的評価：事前学修による提出物評価を行い、フィードバックする。フィードバックは、講義時間に実施する。適切な提出物でない場合、再提出してもらおう。①の未提出者は、総括評価の対象としない。</p> <p>①事前提出物とチーム成果物 ②チーム成果物発表後に確認テスト（IRAT, GRAT）を実施する。（認知領域：形成的評価） ③確認テスト回答シートは毎回回収し、出席確認にする。出席アプリによるものも併用する。（情意領域：形成的評価） ④ポートフォリオ</p>
--

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前課題および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行い、事前成果物を提出すること。各授業に対する事前学修の時間は最低60分を要する。作成した事前課題を、講義前までに提出すること。期限までに提出がないものは当日を欠席扱いとする。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設けて、発表者を指名する。授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。最終の共有化講義では、優れたチームの発表を指名することがある。講義資料はWebClassで配信する。</p>
--

・教育資源

岩手医科大学オープン問題症例集・内科診断学・講義室・図書館・PC・スマートフォン・インターネット環境
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン Spectre x360 13-ap0000	1	講義時に使用
講義	ノートパソコン MacBook Air 13インチ	1	講義時に使用